

2023年12月14日

「札幌市森林整備計画」における白旗山都市環境林での皆伐促進への区分変更についての質問書の提出について

～市民利用の保健・文化機能等維持林に戻し皆伐事業の即刻中止の申し入れ～



当、札幌の自然を守る会は12月14日、表題に関する申し入れを札幌市長と関係する有識者会議委員各位に行いました。

白旗山の森林は、かつて市の財政が乏しかった大正初期のころ、それを補うためカラマツやヨーロッパトウヒなどを植え、学校を建てる資金にするなど大いに寄与してきました。それから100年を数え、都市化も進み、カラマツも3代目になって、今後は都市近郊に相応しい環境林として皆伐を避け、カラマツの長伐期化や択伐を進め、エゾマツ・トドマツや広葉樹など郷土樹種による針広混交林に変えていくことを目指していました。

それを受けた形でこれまで、この森林の取り扱い区分は「保健・文化機能等維持林」に位置づけられ、30年間、こつこつと間伐を進め、樹下植栽木や天然広葉樹を育ててきました。ところが、2023年3月27日策定の「札幌市森林整備計画」では、突如、大面積の20haまで皆伐が可能な「木材等生産林」に替えられ、すでに皆伐が実行されています。

これら白旗山都市環境林の歴史的経緯・森づくりの理念を無視した変更によって、「特に効率的な施業が可能な森林区域を指定。勾配が緩く、路網の整備が進んだ市有林内の人工林を指定」といった伐採優先の理由が掲げられ、いとも簡単に都市環境林の方針が踏みにじられてしまいました。まさに暴挙というほかありません。

当会はこうした札幌市の誤りを一刻も早くただして以前の「保健・文化機能等維持林」に戻し、皆伐事業を即刻中止すべきと考えます。皆伐することでこの地で一体何をするのか、札幌市の説明がないなかでは皆目見当がつきません。いずれにしてもこのような森林破壊には強く反対していきます。

報道機関各位には、この森林破壊の現状をお知らせするとともに広く市民に事実を知ってもらいたく、今回お知らせした次第です。

なお、現場映像は当会ホームページにおいて掲出しています。